



三田キャンパス南別館入口

URL アート・センター <http://www.art-c.keio.ac.jp/>

FRONTIER

教育・研究の最前線

アートを学び、アートに触れる

アート・センター所長／文学部 教授 内藤正人 ないとうまさひと

芸術、いわゆるアートにはさまざまなジャンルがあります。美術、音楽、演劇、舞踏、映画など……それらはいずれも、過去現在の人間による精神活動の所産であり、人の思想や感情が言語や文字を介することなく、さまざまな形をとって表現されたものといえるでしょう。

三田キャンパスの南別館にあるアート・センターは、そうしたさまざまな形態の芸術を研究し、あるいは提示する場として、1993年に誕生した比較的新しい組織です。アート、ことに近現代の芸術をターゲットとする我々研究所では、ともすれば小難しいとか、わかりにくい、として敬遠されがちなアートについて、それを皆さんに感じ、考えてもらう活動を継続しています。たとえば、クラシックやジャズ等の演奏会、舞踏家によるパフォーマンスの実演、映画の上映、さらには、2011年度設置された常設展示室、アート・スペースにおける美術品の展示などがその具体例で、いずれも学内はもとより、広く学外へと開かれた活動として多種多様に発信中です。こうした催事は、ふだんは学校教育の場としても、機能する大学における、社会教育の場としても、頗る大きな意義を担っています。たとえば、学校

周辺地域の皆さまをはじめとする一般社会との重要なチャンネルとして機能するよう、今後も鋭意努力を続けていく所存です。

ところで、アート・センターには、国内ではまだ珍しいアート・アーカイヴが稼働中であり、所蔵品と寄託品によるアート関連の各種資料体の保存、研究や閲覧・展示のサービスがおこなわれているのをご存じでしょうか。一昨年、寄贈後の整理を経て公開がはじまった西脇順三郎関連の資料体、いわゆる西脇アーカイヴが新たに活動を始め、これによつて現在、当研究所では5つの大きなアート・アーカイヴが稼働中です。これらの資料体は、予約制で研究者や愛好家の方々の閲覧に供しており、近年は海外からの来訪者も多いなど非常に人気があります。さらに、こうした資料については学外の美術館や博物館での展示における貸出しの依頼も多く、内外の期待は高まっているようです。閉ざされた場だけではなく、生きた社会との関係においてアートを考え、学び、そして触れる。我々アート・センターの重要な使命とは、所員一同がそうした活動の一端を担うことに尽きる、といえるのです。